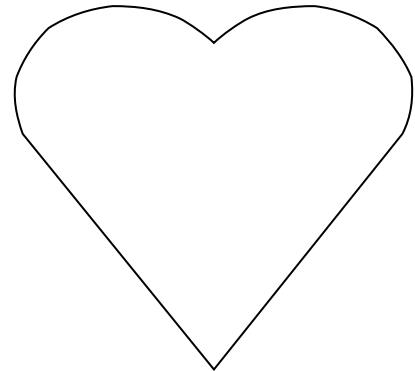


なぜ世界から戦争がなくならないのか？②

「THE！世界仰天ニュース命を懸けた女性たち2時間SP」

2013年8月14日放送 18分

- ・山本美香 ジャーナリスト 16年間戦場を中心に取材。
いつもつき動かしていたのは、愛、使命感というよりも優しさだった。砲撃と銃弾がとびかう町で目と心を向けるのは幸せをのぞむ命。彼女が伝えたかったこととは？
- ・1996年アフガニスタン 旧ソ連による10年にも及ぶ侵攻から解放。それにより国内情勢が不安定に。→イスラム原理主義組織タリバンの台頭
- ・人の命の強さ、はかなさを自分で伝える仕事をしたいと戦場ジャーナリストに。
- ・タリバンが実効支配を拡大する中、そこに生活する女性たち。親族以外の男性との接触を厳しく制限される彼女たち。
同じ女性として自分なら取材ができると思った。
言葉もわからない。言葉がダメなら歌で。心をつかんだ。
首都カブールで暮らす女性たちの真実。
タリバンが支配する前までは、カブールは近代化の進みつつある都市。
大学もあり、女性たちは勉強のほかに恋やおしゃれを楽しむ自由な生活をしていた。
タリバンによる首都制圧で一変。イスラム教を独自の解釈で説き強制。
特に女性に対して厳しかった。すべての女性に肌や顔を覆い隠すブルカの着用を義務づけ。女性1人の外出も禁じた。女性の外出は親族の男性と一緒に。親族以外の男性とは会話をしてはならない。
女性は働いてはならない。教育を受けてはならない。女性が通う学校が閉鎖。
少女たちの夢は奪われた。その撃が命に関わることも…。
女性は肌を見せてはならないという理由で、男性医師の診察、治療は厳しく禁止された。
病気もケガも手遅れとなり、多くの女性の命が失われた。
タリバンの撃(おきて)は絶対。時には容赦ない拷問も…。
自由な未来を信じ密かに集まり命がけで勉強をする。
山本美香さんがどうしても撮影したかった場所。女性があつまる秘密の学校。
禁じられた教育。先生は19歳の元大学生。命がけの勉強。
顔を明かして訴えた。
私たちは動物のようにあつかわれ、家にとじこめられています
教育を受ける権利も与えられず、女性の自由が奪われているんです。
でも、それはイスラム教の教えではありません。
私たちのことを世界に伝えてください。山本美香さん伝えなければなりません。
- ・2003年イラク戦争。首都バグダッドのホテルで巻き込まれた。
ジャーナリスト仲間2人が死亡。死ぬのは自分だったかもしれない。
悲しみを無駄にしてはいけない。



事実を伝えること、問題をなげかけることできっと世の中は変わる。

それが自分の役目だと強く思った。

- ・無事に帰国すれば実家へ。

忘れていた笑顔も自然とでる。

- ・山梨県都留市で山本美香さんは生まれた。あこがれは新聞記者の父。

知ることには大きな意味がある。目をそらしてはいけない。

同じジャーナリストの道へ。自分ができることは何か…。

- ・2011年シリア アサド大統領

独裁体制に市民の怒りが爆発。シリア政府は武力で制圧。

反体制派への攻撃をやめない。

- ・2012年8月シリアに入る。北部の町アレッポへ。

戦火の中でも懸命に生きる人たち。戦いに巻き込まれる市民。

穏やかな笑顔。戦場の片隅で平和を祈る。これが最後の映像となる。

- ・山梨県都留市

突然乱射された?どうして亡くなった?死因は…言って。首を撃たれた…。

山本美香さん(享年45歳)

- ・彼女の死を胸に刻む。

2013年5月3日

彼女の功績をたたえワールドプレスフリーダムヒーロー賞が贈られた。

戦場という名の国はない。

悲劇は数字の大きさではない。

争いの陰には罪なき弱い命があり、誰も奪ってはならない笑顔がある。

彼女の思いは世界に広がっている。

「ten! 山本美香さん殺害の町は…元吹田市職員が緊急取材！！」

2012年放送 22分

- ・元吹田市職員のジャーナリスト 西谷文和氏が戦場に潜入・生報告

- ・西谷文和(にしたにふみかず)ジャーナリスト

元吹田市職員 勤務時代から休暇を使い紛争地などを取材。

アフガンでは毛布の支援も「イラクの子どもを救う会」代表

- ・山本美香さん殺害の町は今…シリアの今を緊急報告

2011年アラブの春が波及

民主化を求める勢力(自由シリア軍)とアサド大統領との騒乱が内戦に

2012年国連停戦監視団介入するも失敗。

山本美香さんが取材中に死亡 シリアのアレポ

これまでに3万人以上が死亡

1日100人単位で人が亡くなっている。

子どもたちが大量に殺されている。

アフガン、イラク、リビア、30か国以上取材をしたが今まで一番身の危険を感じた。

内戦のためロケット弾が飛び交っている。

- ・シリアとの国境に向けて。トルコ側から入国。不法に入国。

自由シリア軍の車でアレッポへ。自由シリア軍に同行。

シリアの国境の町アナダンへ。人口数万人の町だがゴーストタウンに。

ほとんど人はいない。空爆により町が破壊される。周囲の建物も粉々。
民家の破壊。夜の3時半に空爆。普通の生活している家に空爆。
民家に空爆は？国際法違反。戦争犯罪。民家は無差別。病院はピンポイント。
あえて病院。空爆で傷ついた人が他の国に逃げると、アサド大統領の犯罪を証言する生き
証人になる。生き証人を逃がさない。戦争ではない。これは虐殺。大虐殺。
ヘリからの空爆に使用された武器を持つ子ども。ロシア製の武器。イラン製ロケット弾。
これが僕たちの学校でアサド大統領に空爆されました。
勉強している時に空爆があって僕の友達が何人も死んだんだ。
学校にも空爆があった。焼夷弾の進化したもの。いろんな爆弾の実験場。
アナダンー約1000棟のうち約200棟が空爆によって内部が炎上
子どもたちも隣人もアサド大統領に殺され誰一人残されていない。
神様に彼を殺してもらうように祈っている。

- ・山本美香さん殺害の町アレッポへ。アナダンよりも格段に危険。
アレッポー・シリア第2の都市。人口600万人の大坂のような町。
宿泊場所は自由シリア軍の隠れ家。夜に22発のロケット弾。隠れ家を狙って撃たれる。
世界遺産に指定されている町アレッポ。
大通りを横断する時が一番危険。狙われる危険性。開けている＝狙われる。
空爆の後。早く向こう側の商店街に隠れたい。
カメラを持っていると狙われる。ジャーナリストは狙われる。真実を隠したい。
戦争が日常になっている。
アサド大統領は、コーヒーを飲む片手間で空爆を指示する。
昼ごはんを食べながら「空爆しろ」夕食を食べながら「空爆しろ」
朝でも夜でも遊びのような感覚でこちらの痛みは何も考えていない。
殺しが日常…。政府軍はアレッポの人々に毒ガス兵器を使っている。
アサド大統領は自分の兵士を守るためにこのガスマスクを配備している。
アサド側兵士の捕虜が持っていたガスマスク。おそらく化学兵器を使っているのでは…。
最前線。路地で打ち合い。この時間帯は通勤通学の人々でいっぱいだった。
でも今は午前8時なのに誰もいないんだよ。みんな逃げてしまった。
異臭がただよっている。生ゴミが燃えている。ロケット段でゴミ収集車が狙われた。
町を不衛生にして病気をはやらせようとしている。
3週間前に5階建てマンションが空爆され2階までつぶれた。
この1発で20人以上が殺された。
普通のマンション。水道管が破裂して池に。70人が死亡した空爆も。
逃げる準備をしている家族。トルコ側に逃げる。歩いて逃げる人も。
ゴーストタウンに人だかりが。パンを求めて待つ人々。3時間くらい待つ。朝3時間、夕
方3時間。人が集まると狙われてしまう。
普通の市民がアサド大統領に反対して立ち上がった兵士。常に銃声が鳴り響く。
- ・レバノンのトリポリの病院
両足を失った女性。戦車砲で夫と2人の子どもが死亡。
小学校高学年の少年。右足がない。
空爆の破片で傷ついた人。空爆は破片が恐ろしい。破片が飛び散る。
3歳の男の子。左肩に破片。2歳の女の子。右肩に破片。
4歳の女の子は人差し指を失った。
空爆で妻と息子を失った27歳のニダルさん。寝ている時に空爆。

奥さんと子どもを失った。左足が重傷。

ニダルさんのパソコンの待ち受けは在りし日の息子の写真。

空爆直後の様子が残されている。

医者「子どもを病院に運べないくらい周囲も空爆されているんです。」

ニダルさんは映像を見るのはつらいのに…見せてくれた。

1日100人が死ぬというとは1日200人以上がケガを負っている。

・正直、見たくない映像もあった。この映像は過去でも何でもなくて今、シリアで起きていること

外国のジャーナリストもほとんど入れない。狙い撃たれる。

今、できることは世界に発信して一日も早く止めること。

国連は何もできない？中国とロシアが拒否権を出すので国連としては動けない。